

経営概要書

法人名：

十和田ホテル 株式会社

(株 4)

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役 猿田 強	所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課
所在地	小坂町十和田湖宇鉛山無番地	設立年月日	平成9年12月5日
電話番号	0176-75-1122	ウェブサイト	http://towada-hotel.com
主な出資 (出捐)者	出資(出捐)者名	出資(出捐)額(千円)	出資(出捐)比率(%)
	秋田県	100,000	40.0%
	藤田観光(株)	37,500	15.0%
	DOWAホールディングス(株)	22,500	9.0%
	その他3市町、13団体	90,000	36.0%
	合計	250,000	100.0%
設立目的	歴史的・文化的価値の高い十和田ホテルを後世に伝えるとともに、同ホテルの効率的な運営を図り、もって十和田地域の観光の振興に寄与することを目的に県等の出資により平成9年12月に設置。		
事業概要	十和田ホテルの諸施設の管理運営業務		
事業に関連する法令、県計画	なし		

2 平成29年度事業実績

本年度においても、観光客が大幅に減少する冬季間は営業休止とし、事業採算性を重視した経営を行った。売上高では、旅行エージェント個人商品、募集团体商品への参画、インターネット経由での販売を積極的に行うとともに、料理、サービス品質の向上を図り売上拡大に努めた。その結果、宿泊人員12,954名(前期比24名増)となり、宿泊売上高では消費単価の上昇もあり、前年比9.3百万円増収の200百万円となり、ホテル全体の売上高は220百万円(前期比9百万円増)となった。費用面では、送客手数料の増加に加え、水道光熱費が重油価格上昇により増加した。また、人件費では、従業員採用が非常に厳しい環境下であり、サービススタッフの確保を図るため増加となった。以上により営業費用全体で219百万円(前期比11百万円増)となり、営業利益は0.8百万円(前期比1.7百万円減)となった。経常利益では、退職金積立掛金助成金があり、1.1百万円(前期比2.4百万円減)を計上した。以上の結果、法人税等控除後の当期利益は0.6百万円(前期比2.1百万円減)となった。

項目	区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
売上高(千円)	目標	207,575	216,000	218,000	230,000
	実績	211,344	210,613	219,634	—
個人客宿泊人数(人)	目標	12,875	13,100	13,100	13,300
	実績	13,050	12,930	12,954	—
顧客満足度指数	目標	90	90	90	90
	実績	90	91	92	—

3 組織

① 役員数(H30.7.1現在) (単位:人)

区分	取締役		監査役		役員報酬
	H29	H30	H29	H30	
常勤	1	1			支給対象者 (H29年度) 2人
内、県退職者					
内、県職員					平均年齢 59歳
非常勤	7	7	1	1	
内、県退職者					平均報酬年額 (H29年度) 5,700千円
内、県職員	1	1			
計	8	8	1	1	
内、県関係者	1	1			

② 職員数(H30.4.1現在) (単位:人)

区分	H29	H30	正職員
	内、県退職者	7	
出向職員			平均勤続年数 7.2年
内、県職員			平均年収 (H29年度) 3,576千円
臨時・嘱託			
内、県退職者			
計	7	5	
内、県関係者			

③ 取締役会回数

平成28年度	4	平成29年度	4
--------	---	--------	---

4 財務

① 損益計算書 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度
売上高	210,613	219,634
売上原価	182,112	190,256
売上総利益	28,501	29,378
販売費及び一般管理費	25,940	28,531
人件費(売上原価含む)	72,240	75,094
営業利益(損失)	2,561	847
営業外収益	923	257
営業外費用		
経常利益(損失)	3,484	1,104
特別利益		
特別損失		
法人税・住民税・事業税	748	490
当期純利益(損失)	2,736	614

② 貸借対照表 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度
流動資産	107,671	109,335
固定資産	3,585	3,702
資産計	111,256	113,037
流動負債	6,280	7,446
短期借入金		
固定負債		
長期借入金		
負債計	6,280	7,446
資本金	250,000	250,000
利益剰余金等	△ 145,024	△ 144,409
純資産計	104,976	105,591
負債・純資産計	111,256	113,037

(単位:千円)			
退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率(%)

※中小企業退職共済制度へ加入している。

<主な経営指標>

項目	算式	平成28年度	平成29年度	H28-29増減※
経常収支比率	経常収益÷経常費用×100	101.7%	100.5%	△ 1.2
流動比率	流動資産÷流動負債×100	1714.5%	1468.4%	△ 246.1
自己資本比率	純資産計÷負債・純資産計×100	94.4%	93.4%	△ 0.9
有利子負債比率	有利子負債÷純資産計×100	0.0%	0.0%	0.0

※端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

5 県の財政的関与の状況 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度	支出目的・対象事業概要等
年間支出			
補助金			
委託費			
指定管理料			
年度末残高			
貸付金			
損失補償			
その他の財政支出(基金等)			

I 自己評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 観光客、宿泊客に十和田湖の魅力を伝え、十和田湖周辺の活性化に寄与している。国登録有形文化財及び近代化産業遺産を有し、その維持管理に努めている。	A 取締役会を法定回数開催している。常勤の役員がいる。充て職の役員は取締役会に毎回出席している。常勤職員はプロパー職員である。	A 旅行エージェント個人商品、募集団体商品への参画、インターネット経由での販売を積極的に行ったことにより、全数値目標を達成できた。	B 単年度損益は黒字であるが、累積債務がある。

II 所管課評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 県関与の縮小に位置付けられている法人であるが、十和田湖周辺地区の活性化に寄与し、また国登録有形文化財である建物の適正な維持管理を行うなど一定の公共的役割を担っている。	A 取締役会は4回開催されており法定回数を満たしている。常勤の役員及び職員がおり体制は整っている。充て職の役員は毎回取締役会に出席している。	A 個人客宿泊人数が若干目標を下回ったものの、売上高、顧客満足度指数は達成している。	B 単年度損益が黒字であるが、累積債務があることからB評価とする。

III 外部専門家のコメント

宿泊人員増や消費単価増の影響もあり増収となったが、一方で人件費や経費の増加もあり、減益となった。金額は少ないものの、単年度黒字が継続しており、安定的に利益を計上できる体制にはなっている。ただ、現状144百万円と多額の累積債務を抱えており、これを解消するのは容易ではない。貸借対照表は、資産の部は預金が大部分であり、不良債権や大きな償却資産もない。負債の部も借入金はない。このような状況から、今後安定的に黒字体質を維持できる目途がついた段階で、株主の承認の元、減資して累積を一掃するののも一つの選択肢ではないかと考える。

IV 委員会評価

1 公共的役割	2 組織体制	3 事業実施	4 財務状況
B 三セクの行動計画上は「県が直接民間企業に委託することが可能な事業を主たる事業としている法人」に位置づけられている。しかし、県事業に一定の役割を持つことから、引き続き、サービスの維持・向上への取組が求められる。	A 常勤の役職員がおり、組織体制は整っている。充て職役員の取締役会への出席状況も良好であった。	A 事業目標は概ね達成している。引き続き、販路の拡大や情報発信の強化に加え、サービスの品質向上が期待される。	B 単年度経常黒字を維持している。課題である累積債務の解消には長期間を要するものの、年々減少している。引き続き、コスト管理により安定した黒字経営が望まれる。

V 前年度委員会評価

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	B	4 財務状況	B
---------	---	--------	---	--------	---	--------	---

評価結果を受けて実施した経営健全化に向けた取組（概要）

売上高は増加したものの、重油価格上昇に伴う水道光熱費の増加などにより、当期利益が前年度より減少したが、水道光熱費等の経費節減に努めた結果、単年度損益は黒字を確保している。引き続きローコストオペレーション等採算性を重視した経営に取り組む。